

韓国の特権運動 学生運動に連帯しともに斗おう!

韓国特権者民衆とともに闘うために

全国の斗争特権者 学生 友人 同志諸君へ

ここに書いてあることを盲信しとは関係ないし、ビラを捨てないで欲しい。みんな最後まで読んでもううことを確信して書いてください。1980年5月、トナリの韓国でクーデターが起り、全斗煥が軍事政権に上がった。その背景には特権運動が起るようになって来たこと、民主化斗争の盛り上がりの中で、朴大總統が暗殺され、不正・腐敗をくり返す朴政権をうちたおす力が圧倒的に高まったこと、光州で大虐殺を行なった全斗煥は韓国の民主特権運動を徹底的に弾圧した。特権組合を改悪・着せ被服特権・元重手特権組合を強制解散させ、団結権・争議権をうばい、組合をつくることすらもできなくなつた。このように中でも、反の中、よりよみさせた不死鳥のごとく韓国特権者のすさまじい斗争は広がってゆく。1984年、韓国特権運動史上初めて特権運動を指導する組織として「韓国特権者福祉協議会」が結成された。それ以前、韓国の特権運動・学生運動は水面下からとび出し、すさまじい勢いで、全斗煥政権と対決しようとしている。そういつた中で、アジア・スワニー 韓国オニキョーでの不当解雇、組合つぶしがおこなわれた。——アジア・スワニー斗争——

日本の多国籍企業の一つで、スキー用毛布生産では世界最大の規模をもつ、1972年、韓国へ侵略を開始する。韓国には外国企業を向ひえ入れるために、色々な特恵制度があり、たとえば、5年間、完全免税、3年間、半額免税、組合作りはもちろん、会社にあつてつくこともできない。この特恵制度をフルに使ひ、韓国特権者を偽賃金・長時間特権でしぼりつけ、不労という奴は「アパカ」のレットテルをばり解雇する。特権でしぼりつける。アジア・スワニーは、日本のスワニー社（本社 香川県）の100%子会社で300名ぐらひの若い特権者をゆらがせている。1983年金鐘煥さんが入社、韓国カトリック特権青年会（JOC）の会費とわかり首を切られる。ローマ法皇がくるので、あまり問題は起こすなどの上層部の命令により解雇をばり復讐させるが、裏へつく

全国日雇特権組合協議会 釜ヶ崎支部 西成区菟茶屋2-5-23 632-4273

釜ヶ崎日雇特権組合 争議団

1985
6.9

釜ヶ崎解放

また、いやがらせして解雇、金徳順さんとそれを支援する仲間たちのねほり強い闘いがツイく中で、ある晩、教会で寝ていた金徳順さん外1名に100万ウォンでやとわれた。おそいかわり、親カニしようとしてだが失敗。この事件が、韓国内で大きくとり上げられ、あくらつな、日本の侵略企業アジア・スワニーに対する抗議が全国からわきおこった。

アジア・スワニー斗争にからんだ金徳順さんへの親カニ未遂事件は、ただちに日本の労働者に伝わり、まず、東京で1984年12月、抗争行動を行い要求書を提出した。ツイいて、大阪でも、3月・4月、計3回、大阪労働所に抗争斗争を組み要求書をまわした。だが、我々の要求に誠意をもって答えずにタラメな回答をくりかえすだけだった。

——韓国労働者長教と共に闘うために——
釜山島の日産と韓国の労働者長教のおひれている状況はよく以てている。韓国労働者は、多額種、国勢をうばわれ、組合さえもせよない。低賃金で、ニきつかわれ、長時間労働がなくては生活してゆけない。仕事場のカニキヨウは最悪で、労災・賃金未払いがぞく出している。文句を言えは、暴力でたまさか、あぐくのはては首を切る、おれたち寄せ場労働者がおかれています状態とソックリだ。わしらも、釜の暴力支配、労働行政と闘った時、まか、民間暴力団を先頭に、国営暴力団が権圧をしかけてくる。仕事はこせよと、大阪府に行った時、権力はすさまじい権圧をかけてきた。なぜこのように韓国労働者と寄せ場労働

者はよく似た状態にあるのだろうか。それの答はカンタンだ。おたぎりびしほりという側の人間であり、しほりだったものでこえふとっている人間ではないからだ。我々、寄せ場労働者は、しほりという側の人間——労働者であって、資本家ではない。この階級的視点、労働者には国境がない。国際的視点で闘ってゆかねばならない。

——差別分断構造を壊す——
釜は、資本主義社会の才力が集中しており在日朝鮮人——被差別部落民——沖縄人——しようかいしやが共に生活をしている。日本の基幹産業をになうが、不利になれば、すぐ切りぬく。その、資本主義体制の末端、飯場経営者、人夫出しに在日朝鮮、韓国人が多い。釜の労働者は低賃金・暴力支配に耐える怒りを親方にぶつけ、親方はかつて日帝時代にうけた、うらみ、民族差別、いまも朝鮮人であることで差別されてきたことの怒りを労働者にぶつける。おたがし差別されて来た者達が、この下層社会で矛盾をぶつけあって命をすりへらしている。一にぎりの権力が、多数を支配しようとするとき、民衆を分断しケンカさせて、上に向かうのではなく民衆内部に向かわせる。そうすれば権力はいつまでもあんだいだ。この民衆への差別分断を労働者被差別大衆の大きなうねりで、うちやぶるために日韓労働者の連帯、民族問題とまっこうからとり組んでゆくことは、我々下層労働者の闘いとして確信している。